

福岡商工会議所 高 上 保 夫
 福岡大学 正 吉 田 信 夫
 西日本工業大学 正 堤 昌 文
 福岡大学 学 ○ 二階堂 哲 郎

1. はじめに

近年、大規模店舗の郊外住居地域内への進出に伴う周辺道路の混雑は周辺住居地域の交通計画に新たな問題を投げかけている。また最近、自動車の普及とともにバス、二輪車、自転車の利用により、大規模店舗への交通手段も多様化し、それに伴って商圏も拡大されてきた。本報では、福岡市西区原に立地した大規模店舗周辺地域を対象とし、大規模店舗進出に伴う交通特性の変化と周辺住民の意識とについてアンケート調査し、若干の考察を加えたものである。

2. 調査概要

表-1 店舗概要

表-2 利用客特性(%)

本調査で対象とした店舗は、国道202号線原四ッ角より県道藤崎・四箇線に沿って南へ250mに位置し、西新商店街より約300m離れている。この店舗概要を表-1に示す。周辺は、原団地、星の原団地などの住宅団地と、一戸建て住宅地となっており、周辺道路

敷地面積	18843m ²
建築構造	1F~3F
延床面積	228165m ²
営業時間	10:00~19:00
営業開始	昭和51年10月27日
駐車場	地上 320台
	屋上 238台

性別	男	42.0 (31.0)
	女	58.0 (69.0)
職業	主婦	36.7 (42.2)
	学生	19.3 (19.3)
	生徒・児童	1.6 (6.2)
	サービス業	1.0 (6.8)
業	公務	3.5 (3.6)
	その他	18.0 (21.9)

は国道202号線、県道藤崎・四箇線の他は全て幅員6.0m以内の狭い道路で、駐車禁止区域となっている。アンケート調査は調査員数の関係から利用客特性と利用理由、利用交通機関などについて昭和54年4月9日(月)10~18時に311サンプル、利用交通機関、利用ルートについて昭和54年7月25日(水)10~18時585サンプル、駐車場の利用台数とその流入方向について昭和54年12月16日(日)10~18時、周辺住民の意識を昭和54年12月25日(火)337サンプル調査した。表中の数値は昭和54年4月9日調査のものであり、()中の数値は昭和54年7月25日調査したものである。

3. 利用客特性と利用交通機関

店舗利用者の特性を表-2に示す。主婦、36.7%、学生19.3%が主である。これは、大規模店舗が買物以外にゲームなどのレジャーの場としても利用されていることを示している。次に、利用客の利用目的を買物、買物以外(飲食、レジャー、業務など)に分けて、理由別に表-3に示した。買物をトリップ目的とした利用客の多くは「商品が豊富」、「近距離」を利用理由としてあげ、買物以外をトリップ目的とした利用客は、前述の利用理由とともに、その他(「この店のみ」11.9%、「駐車場あり」9.5%など、計49.8%)もあげている。次に交通機関別利用率、来店ひん度、商圏域の距離の平均値を表-4に示す。これによると、自転車が28.0%、乗用車が25.0%とかなり高い値を示している。また、

表-3 利用客の目的別利用理由(%)

	性別		利用理由			
	男	女	商品豊富	近距離	便利さ	その他
買物	39.0	61.0	41.6	30.5	8.9	19.0
買物以外	64.3	35.7	23.8	21.4	5.0	49.8

表-4 利用交通機関別利用率、ひん度、商圏

	買物	買物以外	来店ひん度		商圏
			買物	買物以外	
バス	14.0	17.0	週1~2回	月2~3回	3.1km
徒歩	23.0	20.0	週1~2回	週1~2回	0.7km
自転車	28.0	12.0	週1~2回	週1~2回	1.4km
乗用車	25.0	37.0	月2~3回	月2~3回	3.1km
タクシー	3.0	3.0	月1回以下	月1回以下	2.3km
バイク	7.0	9.0	週1~2回	週1~2回	3.3km

表-5 乗用車利用理由(%)

自由に利用できる	56.3 (62.7)
家族と一緒に来れる	23.8 (13.0)
大きな品物運べる	8.8 (9.3)
その他	11.1 (15.0)

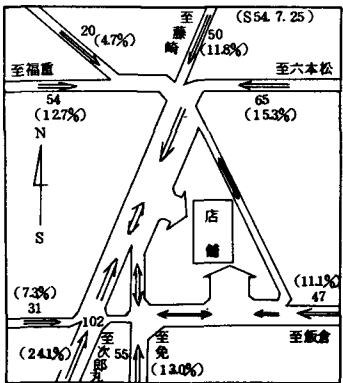
表-6 駐車場・自転車置場に対する意見(%)

	駐車場	自転車置場
面積十分	72.5 (69.6)	59.3 (54.0)
面積不十分	12.5 (6.8)	8.6 (9.2)
形態の改善	15.0 (5.6)	0 (0)
利用しやすい場所へ	0 (0)	22.2 (24.1)
その他	0 (18.0)	9.9 (12.7)

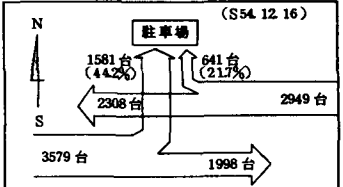
来店ひん度は、徒歩、自転車などの交通機関では週１～２回とひんばんに利用している。商圈は、それぞれ、所用時間１５～３０分程度で来店できる範囲と考えられる。自動車利用理由を表－５に、駐車場及び自転車置場に対する意見を表－６に示す。利用理由としては、「自由に利用できる」５６.３％、「家族と一緒に来れる」２３.８％と大半を占めている。駐車場及び自転車置場に対する意見も「面積は十分」という意見が大半を占めている。自転車置場に対して、「もっと利用しやすい場所に作ってほしい」が、２.２％を占めているのは、利用客が店舗入口付近に自転車を置くことを希望しているが、実際の自転車置場は店舗の裏側で多少不便であるためと思われる。

4. 利用ルートの特性

利用ルート別の店舗利用者数を図－１に示す。方面別にみると、六本松１５.３％、藤崎１１.８％、福重１２.７％の利用客がある。免１３.０％であり、次郎丸２４.１％と高い値を示している。利用交通機関別にみると、徒歩による利用客は、店舗付近から住宅街路を利用し、特に星の原団地からは２６.７％の利用客がある。自転車による利用客は、免２３.９％が最も多く、次いで飯倉１５.５％、六本松１４.１％となっている。バスによる利用客は、次郎丸・免３７.４％が最も多く、福重２３.６％、六本松２２.８％、藤崎１６.３％である。乗用車による利用客は、次郎丸の２３.２％が最も多く、次いで飯倉２１.０％となっている。特に住宅街路の利用客が１２.３％と多いのは、乗用車の利用客が駐車場入口に通じる道路に集中するためと考えられる。このため乗用車について、店舗駐車場入口付近で、通過台数と駐車場への流入台数の調査を行なった。これを図－２に示す。これによると、飯倉方面からの流入率は２１.７％であるのに比べ、次郎丸・免方面からのそれは４４.２％と２倍強を示している。さらに、時間別の通過、流入量は１３時～１５時に両方向それぞれ最大流入量を記録した。しかし１５時以後は東方向からの流入車（右折）と西方向からの通過車との交差点における停滞が両方向の交通渋滞をひき起こす原因となっている。



図－１ 流入経路別トリップ数



図－２ 通過台数と駐車場への流入台数

5. 周辺住民意識調査

現在、アンケートの集計を行なっているが、周辺住民は大規模店舗進出にともない買物の便利さは一様に認め、また、競合する商店も利用客の増加を好ましいものとみなしている。しかし、その一方では、交通量の増加による交通渋滞と交通事故の増加を懸念している。なお詳細については当日発表する。

6. まとめ

以上の調査結果から、この大規模店舗は、買物のほかにレジャー、飲食などの場として多様に利用され、その商圈は、利用交通機関別の商圈の距離の平均値から、１５～３０分程度で来店できる範囲である。また、その利用客の利用ルートを見ると、スーパー程度の商店舗は立地しているが、大規模店舗がない星の原団地などの大型団地の次郎丸・免方面からの利用客が多い。特に日・祭日は、乗用車の利用客が多く、店舗周辺道路の混雑、渋滞などの問題を生じている。

このことから、まず周辺道路、特に駐車場入口付近の道路の拡幅、チャンネルゼーション、次郎丸・免方面からの道路の拡幅と交通安全施設の整備が急がれる。また付近の道路に駐車状況標示板の設置など交通情報提供の対策がのぞまれる。